

視聴覚教育

III 全国視聴覚教育研究会

岡崎大会をめざして III

現職教育視聴覚部部長 山田利一

日本の世界における位置づけが、最近急激に変化してきた。かつては、欧米先進国に追いつくべく懸命に努力していたわが国だが、今や油断ならぬ競争相手として警戒され、思わず摩擦まで起こしている。つまり、日本はすでに、世界的に責任ある立場に置かれているということである。加えて、高度情報化社会の到来により、世界の国々の距離が縮まつた。このことから、今や「世界中の日本」を意識しないわけにはいかなくなつた。

松下視聴覚教育研究財団は、こうした状勢をふまえ、本年度から、国際的な視野に立ち、内外から日本を見つめ直すことにより、一人ひとりの新しい発見や、無限の可能性を拓げ、国際社会に適応できる素地を育てたいと、いう考え方から、「国際化」というテーマをうちだした。本年二月、その皮切りの全国大会を是非岡崎でと依頼を受けた。岡崎の視聴覚教育は、長い歴史と優れた実績

NO 142
発行日 63.5.10
発行 岡崎市 AVL
編集 広報委員会

がある。昨年度も、文部大臣賞をはじめ大きな賞を数多く受けている。松下財団の助成校は、全国で六八五校、愛知は、東京に次いで七七校で第二位、その中で二二校が岡崎である。全国的に高い評価を受けている実績をふまえた上で、のたつての要請であった。関係者との打合せを重ね、期間に問題があつたけれども、実施の方向で次のように概要が決まつた。

○テーマ(仮) 「岡崎市の視聴覚教育と、国際化に適応する人づくりをめざして」

○期日 昭和六三年十月二一日(金)

○会場

・小学校部会(井田小学校)

・中学校部会(甲山中学校)

○日程

・午前 小・中別部会(井田小・甲山中)

・午後

・全体会(甲山中)

研究発表二名・基調講演(交渉中)

(午前は、「視聴覚教材・機材を生かした授業のあり方」をテーマに、岡崎の発表。午後は、松下財団が中心となつた研究発表と講演)

準備期間六ヶ月というまことにハドな大会で、特に、会場校には大変なご無理を申し上げてるので、是非とも全市的なご協力を切に願いたいものである。

折角の機会に、今までの実践が十分反映されるように、また一段と飛躍の場であるように期待したい。



